

5 両生類の地方名調査結果

(1) カエル類 (カエル目) (総称)

- ① 対象種
カエル類全体
- ② 生息情報
全集落
- ③ 採録した呼び名
 - a) カエル類総称
 - ・ 一般的な和名の訛 カイル, ガイル, ガエル
 - ・ 一般的な和名等 カエル, カワズ
 - b) 頭を伏せた姿のカエル類
ヒラガエル, ベッシャガエル



ダルマガエル

- ④ 生息及び呼び名の状況

当時は多くの種類のカエル類が郡内全集落に分布し、家の軒先から田畑、川、山林等いたる所で見かけられ、住民にとり身近にあり接することが多かった生き物である。

 - a) カエル類総称

カエル類の総称としては、「ガイル」や「ガエル」をはじめ計5種を採録した。

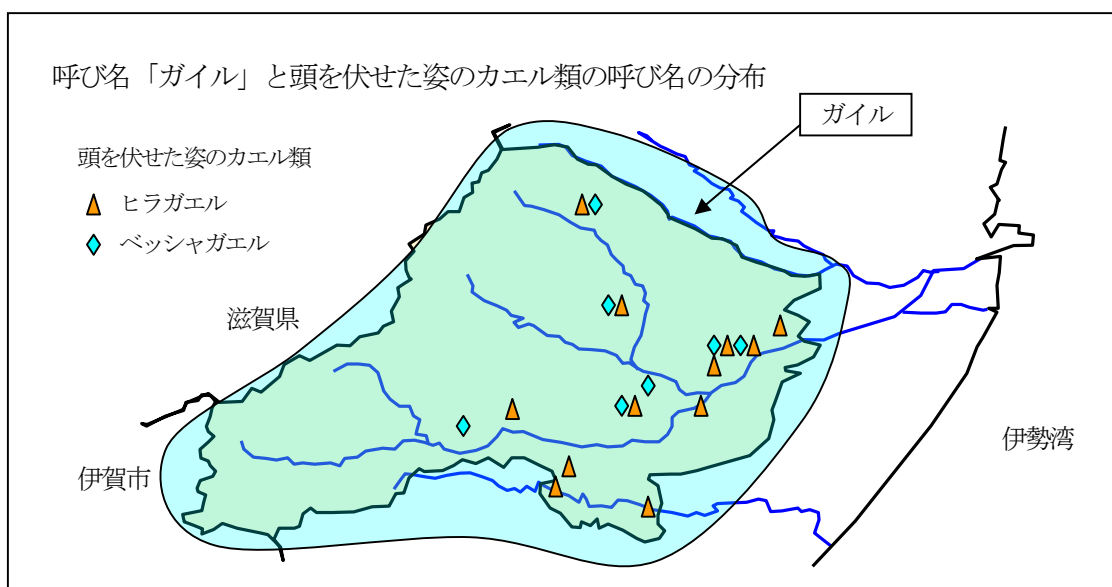
当初の聴き取りから、調査対象年代当時（以下「当時」という。）には学校教育等により一般的な和名である「カエル」が一般化しつつあったと考えられたことから、被聴き取り者からその祖父母等の世代が主に使用していた呼び名について改めて聴き取りを行った。

その結果、市街地であった亀山中心部を除くほとんどの集落で、カエル類は当時の高齢者から「ガイル」と呼ばれた。当時、子ども達は学校で「カエル」と習う一方、高齢者は「ガイル」と呼び、地域では中間的な「カイル」、「ガエル」とも呼ばれていたことが伺われた。
 - b) 頭を伏せた姿で見られるカエル類

ニホンアマガエルやシュレーゲルアオガエル等は木の葉の上等で頭を伏せた姿でよく見かけられたことから、他のカエル類と区別し「ヒラガエル」や「ベッシャガエル」と呼ばれ、計2種を採録した。こうした呼び名は郡内に散在してみられ、よく使われた呼び名ではないものの、かつては広い範囲で使われた可能性がある。
- ⑤ その他

聴き取りから、次のような表現を採録した。

 - ・ 「百姓するはガイル切り」



(2) カエル類の幼生 (オタマジャクシ)

① 対象種

カエル類の幼生

② 生息情報

全集落

③ 採録した呼び名

- カエルの幼生を示す カイルゴ, ガイルゴ, カエルノコ
- 形態等 オタマ, オタマガエル, ドタマ
- その他 ガイルゴダマ, ガニコダマ, サンタ, デンベ, ドボネ

※「オタマガエル」はより成体に近い状態の幼生を表わす。

「ガイルゴ」は集落によっては卵塊や成体に近い状態の幼生を表す場合がある。



④ 生息及び呼び名の状況

郡内全集落に分布し、当時は水田や小川、池等の流れがない又はおだやかな水辺ではどこでも見かけられ、とりわけ子ども達にとり身近な生き物であった。

カエル類の幼生の呼び名としては、「オタマ」や「ガイルゴ」をはじめ計11種を採録した。

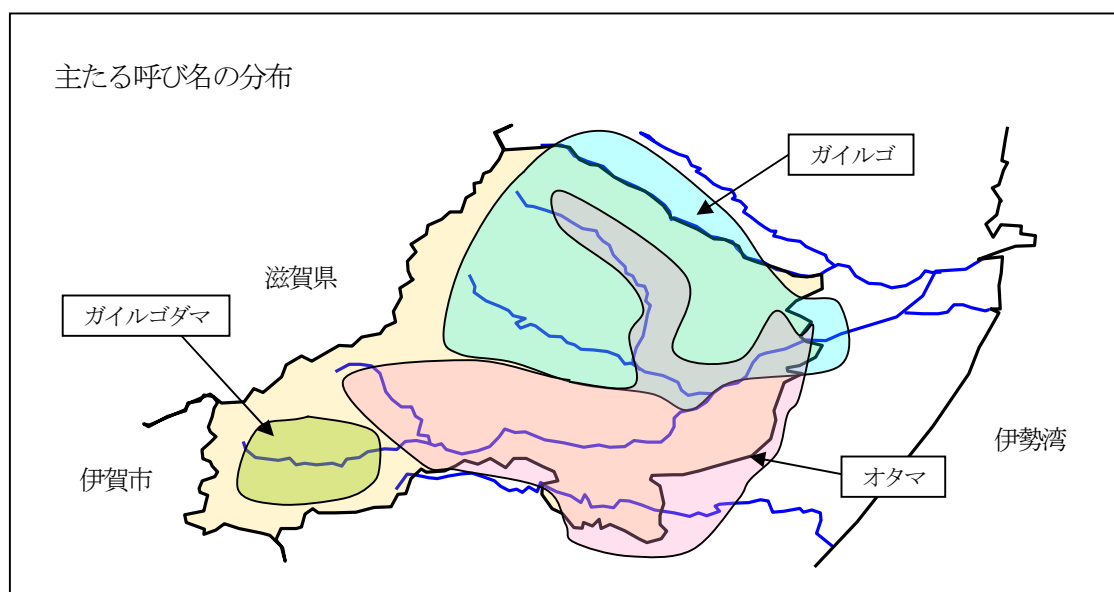
当初の聞き取りから、当時には学校教育等により「オタマジヤクシ」が一般化しつつあったと考えられたことから、被聞き取り者からその祖父母等の世代が主に使用していた呼び名について改めて聞き取りを行った。

その結果、概ね東海道沿いの集落や巡見街道沿いの集落では主として「オタマ」と呼ばれ、その他の地域では「ガイルゴダマ」と呼んだ加太地区を除き、主として「ガイルゴ」と呼ばれた。また、地域的な広がりはみられなかった「サンタ」、「ドボネ」、「デンベ」等がみられた。

なお、「オタマ」と「ガイルゴ」の両呼び名のみられた集落は半数以上あり、その場合、「ガイルゴ」は「オタマガエル」と同様に手足が生えより成体に近い状態の幼生を表す傾向があるほか、卵塊を指す場合があったが、同じ集落内でも人により回答内容が異なる場合もみられたことから、集落単位での調査結果ははっきりとしない面が残る。

⑤ その他

「ガイルゴ」と「オタマ」が異なる状態のカエル類の幼生を表すことは、新たな呼び名の広がりとともに、旧来の呼び名との間で意味する内容の使い分けが図られた可能性が考えられる。



(3) ヒキガエル類 (カエル目ヒキガエル科)

① 対象種

ニホンヒキガエル, アズマヒキガエル, ナガレヒキガエル

② 生息情報

全集落

③ 採録した呼び名

- ・ 体の凸凹 イボガエル
- ・ 毒の粘液 ドクガエル
- ・ その他 フクガエル, フグガエル



④ 生息及び呼び名の状況

俗称で「ガマガエル」と呼ばれる大型のカエルである。

近年では身近で見かけることはほとんどないが、当時は郡内全集落に分布し、畑や藪等の日陰となる場所で見かけられた身近なカエルであった。

本種の呼び名としては、「フクカエル」や「イボガエル」をはじめ計4種を採録した。

郡内では、主として「フクガエル」と呼ばれ、全集落でその呼び名を採録したほか、体に凸凹状のものがあることに由来し「イボガエル」と呼ぶ集落が鈴鹿川本流及び中ノ川沿いの地域を中心に、また体の粘液に毒が含まれるとされることに由来し「ドクガエル」と呼ぶ集落が安楽川や御幣川沿いの地域を中心に見られた。

聴き取りでは、一般的な和名である「ヒキガエル」や「ガマガエル」という呼び名もみられたが、地域に由来する呼び名ではないと考えられたため、採録しなかった。

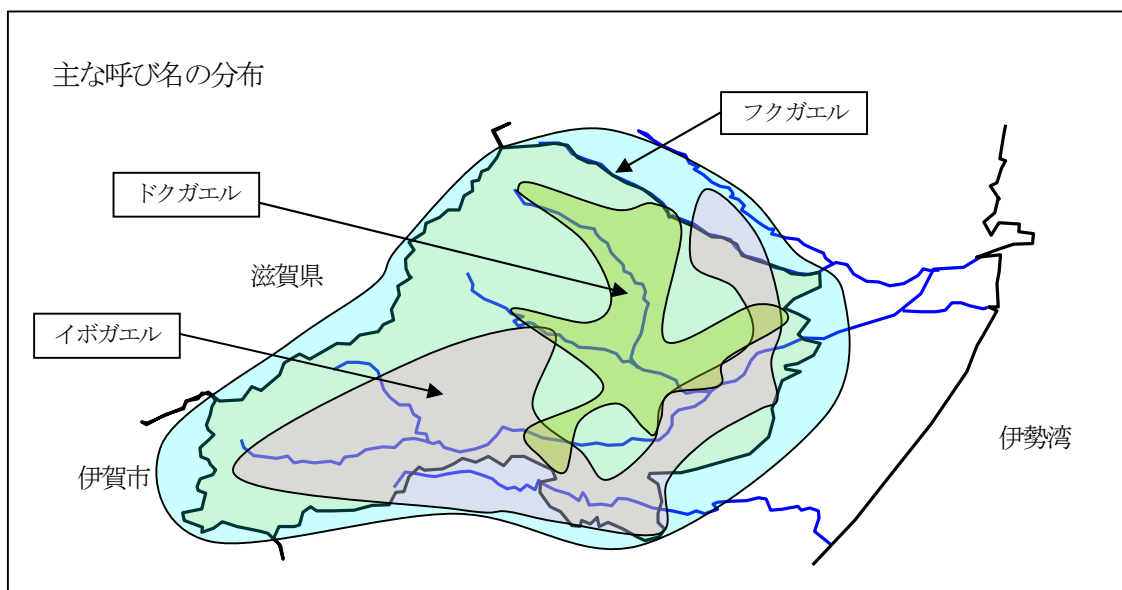
なお、周辺集落としての聴き取りを行った郡南部で隣接する津市高野尾町では「ヒキゴト」を採録し、鈴鹿郡と全く異なる呼び名がみられた。

⑤ その他

聴き取りから、他のカエルに比べ動きが鈍く畑のミミズをよく食べていたという話があった。

また、「フクガエル」の「フク」は「福」という意味を持つものと考えられ、家屋敷に本種がいると「福が来る」として大切にしたいという集落が多くみられた一方で、「毒を吹く」、「膨れる」ことからそのように呼ぶものと解釈された集落もみられ、次のような表現を採録した。

- ・ 「フクガエルは『福ガエル』で金が授かる」
- ・ 「フクガエルに吹かれると顔が腫れる」



(4) アマガエル (カエル目アマガエル科)

① 対象種

ニホンアマガエル

② 生息情報

全集落

③ 採録した呼び名

- ・ 一般的な和名 アマガエル
- ・ 体色 アオガエル
- ・ その他 カミナリガエル

※ 頭を伏せた姿のカエル類

ヒラガエル, ベッシャガエル



④ 生息及び呼び名の状況

雨降り前になると鳴き声が聞こえ、体色は周囲の環境に応じて黄緑色から灰褐色と変わる小型のカエルである。郡内全集落に分布し、現在でも庭先等でよく見かけることができる。

本種の呼び名としては、「アマガエル」や「アオガエル」をはじめ計3種、また「ヒラガエル」等の頭を伏せた姿のカエル類の呼び名と合わせ、計5種を採録した。

郡全域において一般的な和名である「アマガエル」と呼ばれたほか、黄緑色の体色に由来し「アオガエル」とも呼ばれたり、また雷雨に関係し「カミナリガエル」と呼ぶ集落が鈴鹿川中流域を中心にみられた。

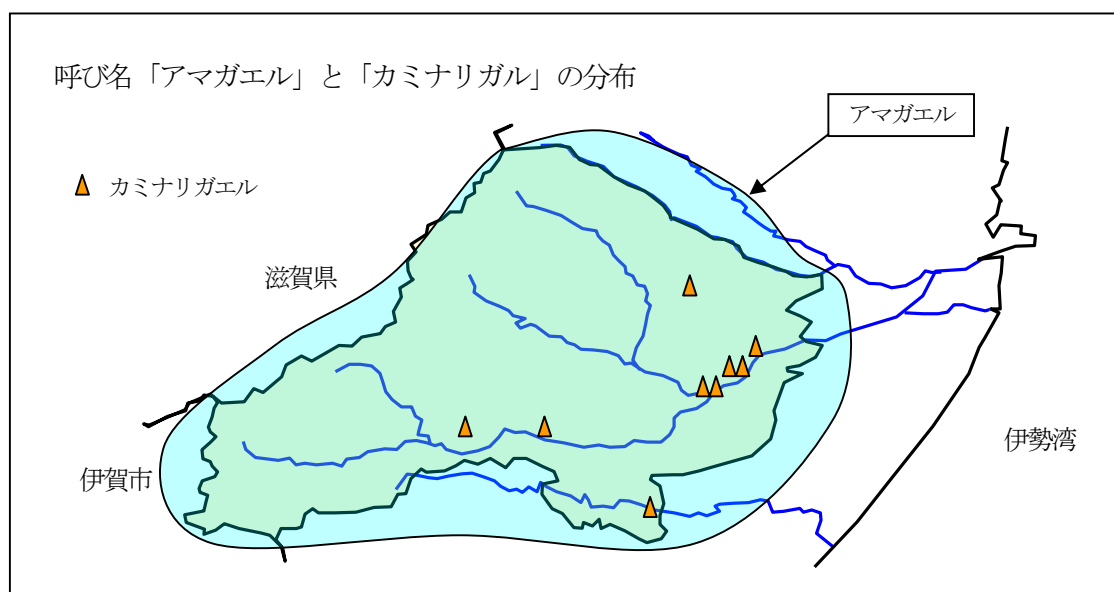
家の軒先や近くで見られる場合は「アマガエル」と呼ばれた一方、体色からの「アオガエル」は本種とよく似たシュレーゲルアオガエルと混称となっていたものと考えられる。なお、本種を「アマガエル」、シュレーゲルアオガエルを「アオガエル」と呼び分けをしていた高齢者は多くはないものの見られた。

また、木の葉の上等で頭を伏せた姿でよく見かけられたことから、「ヒラガエル」又は「ベッシャガエル」とも呼ぶ集落が数少ないものの郡内に散在した。

⑤ その他

聴き取りから、すぐに泣く子のことを「アマガエル」と呼んだという集落がみられたほか、次のような表現を採録した。

- ・ 「アマガエルの腹を伸ばして目の近くで動かすと目が良くなる」
- ・ 「アマガエルを飲むと体に良い」



(5) アカガエル類 (カエル目アカガエル科)

① 対象種

ニホンアカガエル, ヤマアカガエル, タゴガエル等

② 生息情報

全集落

③ 採録した呼び名

- ・ 体色 アカガエル
- ・ 軍服色 ヘイタイガエル
- ・ その他 カミガエル, カミサンガエル, トノサマガエル, トノサンガエル



ニホンアカガエル

④ 生息及び呼び名の状況

トノサマガエルに似た体型であるが, 全身が橙色の体色をし林地等でよく見られるカエルである。

近年では平野部で見かけることは少ないが, 当時は郡内に山林が広がっていたこと等もあり郡内全集落に分布した一般的なカエルであった。

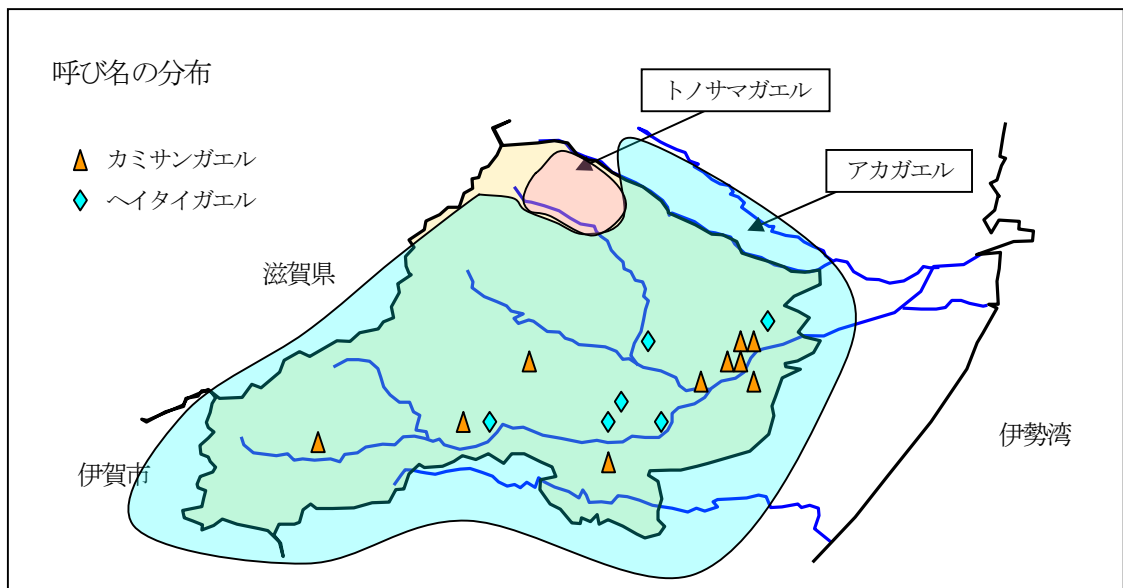
本種の呼び名としては, 「アカガエル」や「カミサンガエル」をはじめ計6種を採録した。

一部の集落を除き郡のほぼ全域で橙色の体色に由来し「アカガエル」と呼ばれたほか, 「カミサンガエル」が庄野地区を中心として, また昔の軍服の色とよく似た体色に由来する呼び名とみられる「ヘイタイガエル」が鈴鹿川中流域を中心に散在してみられた。こうした呼び名は主たる呼び名である「アカガエル」の別名としてあり, 一部の集落を除きよく使われた呼び名ではなかったという。

なお, 郡北部にある椿地区では本種を「トノサマガエル」と呼び, 他地域においても同様に呼ぶ集落が数少ないのみみられた。

⑤ その他

聴き取りから, 本種は「林地にいる胴の長い朱色のカエル」というイメージで捉えられたほか, 「食べてうまいカエル」や「アナバチの巣を探すためにアカガエルを用いた」という話を採録した。



(6) トノサマガエル (カエル目アカガエル科)

① 対象種

トノサマガエル, ダルマガエル

② 生息情報

全集落

③ 採録した呼び名

- ・ 標準和名等 トノサマガエル, トノサンガエル
- ・ 体 色 アオガエル
- ・ 体の模様 シマガエル
- ・ 大きいこと オオガエル



④ 生息及び呼び名の状況

昔からカエル類の代表する大型のカエルであり、水田等でよく見られる。近年では大型個体を見かけることは少なくなったが、当時から郡内全集落に分布し、アマガエルとともに目にすることが最も多かったカエルである。

本種の呼び名としては、「トノサマガエル」や「シマガエル」をはじめ計5種を採録した。

ほぼ全域で標準和名である「トノサマガエル」、又は「トノサンガエル」と呼ばれたほか、鈴鹿川中上流及び御幣川流域の集落を中心として体の縞模様由来し「シマガエル」という呼び名がみられた。

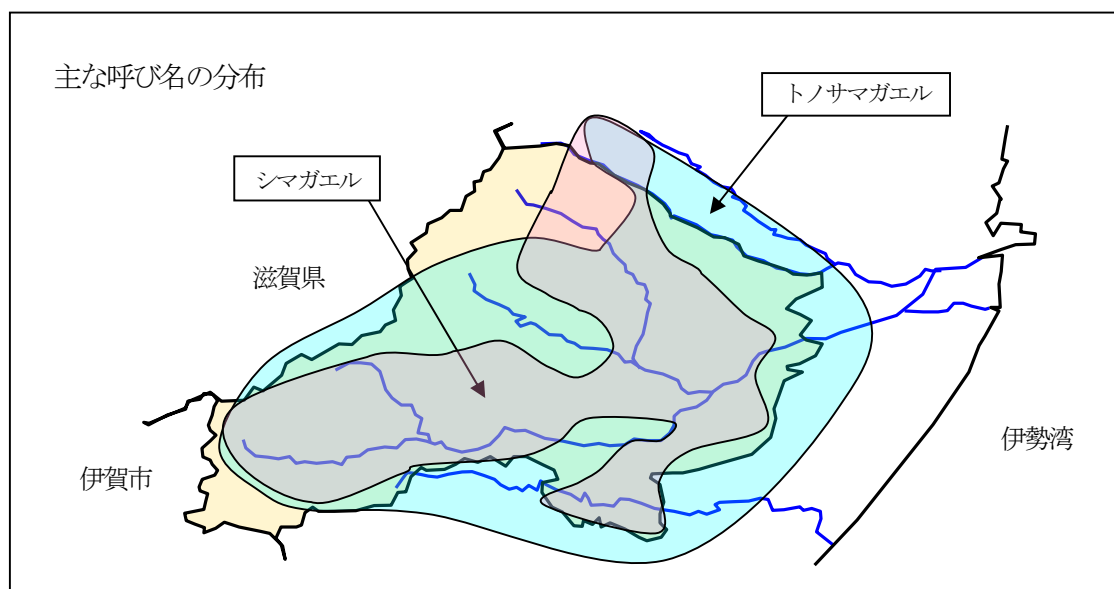
「トノサマガエル」と「シマガエル」の関係については、本種を「シマガエル」と呼びアカガエル類を「トノサマガエル」と呼んだ椿地区を除き、集落によりはっきりとはしない面が残るが、「シマガエル」は当時の高齢者が使用していたという話が多く集落でみられたことから、古くからの呼び名であり、当時次第に「トノサマガエル」に変わって行きつつあったものと考えられる。

また、黄緑色の強い体色の個体はニホンアマガエルやシュレーゲルアオガエル等と同様に「アオガエル」と呼ばれた場合もあったようで、そうした集落は郡内に散在してみられたことから使用実態としてはより多くの集落でその様に呼ばれた可能性がある。

なお、周辺地域として聴き取りを行った伊賀市柘植では「キングエル」を採録した。

⑤ その他

聴き取りから、「カイコをエサにトノサンガエルを釣った」というカエル釣りの話を採録した。



(7) ツチガエル・ヌマガエル (カエル目アカガエル科)

① 対象種

ツチガエル, ヌマガエル

② 生息情報

全集落

③ 採録した呼び名

- ・ 体色 クソガエル, ドドガエル, ドブガエル, ドロガエル, ババガエル
- ・ 体の凸凹 イボガエル
- ・ その他 ドクガエル

④ 生息及び呼び名の状況

ツチガエルとヌマガエルは、ともに黒茶色の体色をし、体に凸凹状のものが見られるよく似たカエルである。

近年では平野部で見かけることが少ないが、当時は郡内全集落に分布し、水田や水路また畦土の中等でよく見られた一般的なカエルであった。

本種の呼び名としては、「ババガエル」や「ドブガエル」をはじめ計7種を採録した。

黒茶色の体色に由来する呼び名が数多くみられ、ほぼ郡全域で「ババガエル」と呼ばれたほか、集落によっては「ドブガエル」や「ドロガエル」等とも呼ばれた。

また、集落数としては少なかったが、体の凸凹から「イボガエル」と呼ぶ場合もみられた。

なお、郡南部で接する芸濃町明地区(旧河芸郡)の集落では「クソガエル」と呼ばれ、隣接する鈴鹿郡内の一部の集落でもその影響が見られたが、鈴鹿郡での主たる呼び名はほとんどの集落で「ババガエル」であることから、当該地区周辺では郡域によりほぼ明確に呼び名が分かれた。

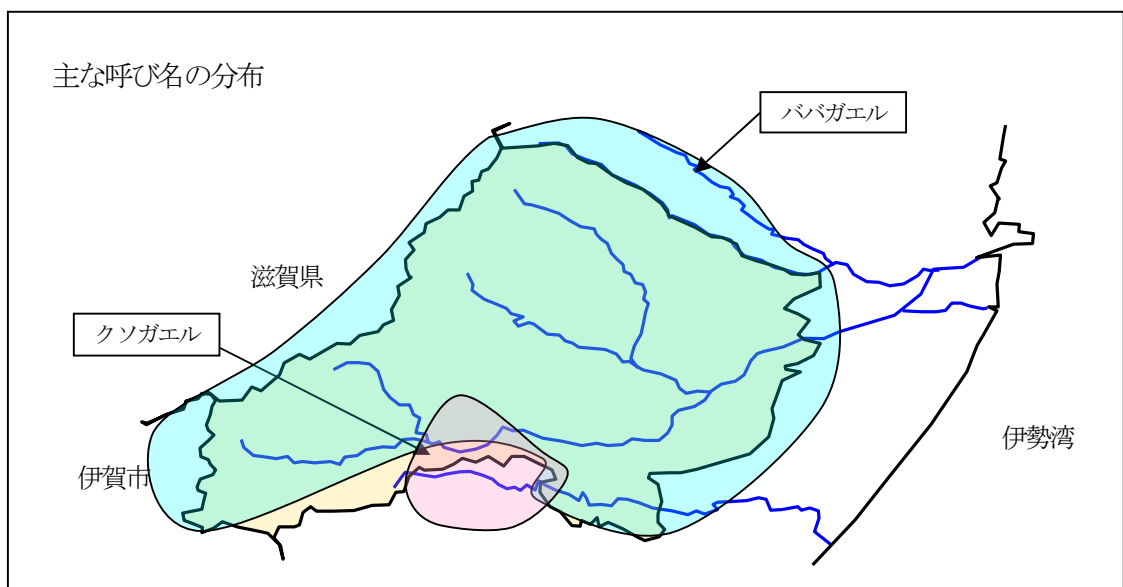
⑤ その他

聴き取りから、多くの集落で薬用として利用した、又は利用できるという話がみられ、次のような話を採録した。

- ・ 「皮は腫れを取ったり、熱さましに使った」
- ・ 「煎じて風邪の熱さましとして飲んだ」



ツチガエル



(8) シュレーゲルアオガエル (カエル目アオガエル科)

① 対象種

シュレーゲルアオガエル

② 生息情報

ほぼ全集落

③ 採録した呼び名

- ・ 体色 アオガエル
- ・ アマガエルとの混称 アマガエル
- ※ 頭を伏せた姿のカエル類
ヒラガエル, ベッシャガエル



④ 生息及び呼び名の状況

主として林縁部の水田等に生息し、山林や谷川に近い水田畦等に白い泡状の卵塊を産み付ける小型のカエルであり、ニホンアマガエルによく似る。

近年では平野部で見かけることはあまりないようであるが、当時は郡内に山林や湿田が広がっていたこと等から一部の開けた地域を除きほぼ郡内全集落に分布した。

本種の呼び名としては、「アオガエル」と「アマガエル」の計2種、また「ヒラガエル」等の頭を伏せた姿のカエル類の呼び名と合わせ、計4種を採録した。

多くの集落で黄緑色の体色に由来し「アオガエル」と呼ばれた一方、「アマガエル」とも呼ばれたようで、本種とよく似たニホンアマガエルと混称となっていたものと考えられる。なお、本種を「アオガエル」、ニホンアマガエルを「アマガエル」と呼び分けをしていた高齢者は多くはないものが見られた。

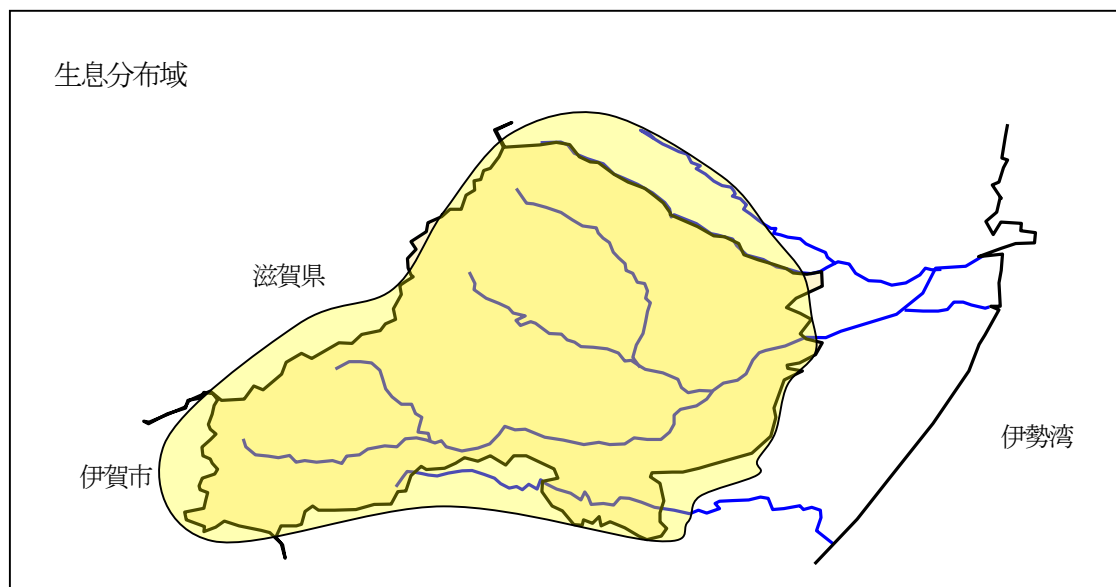
また、木の葉の上等に頭を伏せた姿で見かけられたことから、集落によってはニホンアマガエル等とともに「ヒラガエル」又は「ベッシャガエル」とも呼ばれたものとみられる。

⑤ その他

聴き取りから、大きな山林の谷間に深く入り込んだ水田の畦等では、今でも本種やその白い泡状の卵塊を見かけることがあるという。

当初、本種を調査対象としていなかったが、聴き取りの過程で「アマガエルによく似ているが、異なるカエルがいる」と、本種とニホンアマガエルを区別する話がいくつかの集落でみられたことから、調査対象に加え聴き取りを行った。

調査方法としては、水田畦等に白い泡状の卵塊の産み付けるという本種の産卵習性・特徴に着目し、その有無を目安として聴き取りを行ったが、ニホンアマガエルとの混同の可能性は残る。



(9) モリアオガエル (カエル目アオガエル科)

① 対象種

モリアオガエル

② 生息情報

森や林が広がった集落

③ 採録した呼び名

- ・ 体色 アオガエル
- ・ 泡状の卵塊 アワガエル
- ・ アマガエルとの混称 アマガエル

④ 生息及び呼び名の状況

黄緑色の体色をしたやや大型のカエルで、水場の上にかかった木の枝に白い泡状の大きな卵塊を産み付けるのが特徴のカエルである。

近年では山間部以外で見かけることはできないが、当時は郡内に山林や湿田が広がっていたこと等から、山林の少ない一部の開けた地域を除き、広い範囲に分布していたことが伺われた。

本種の呼び名としては、「アオガエル」や「アワガエル」をはじめ計3種を採録した。

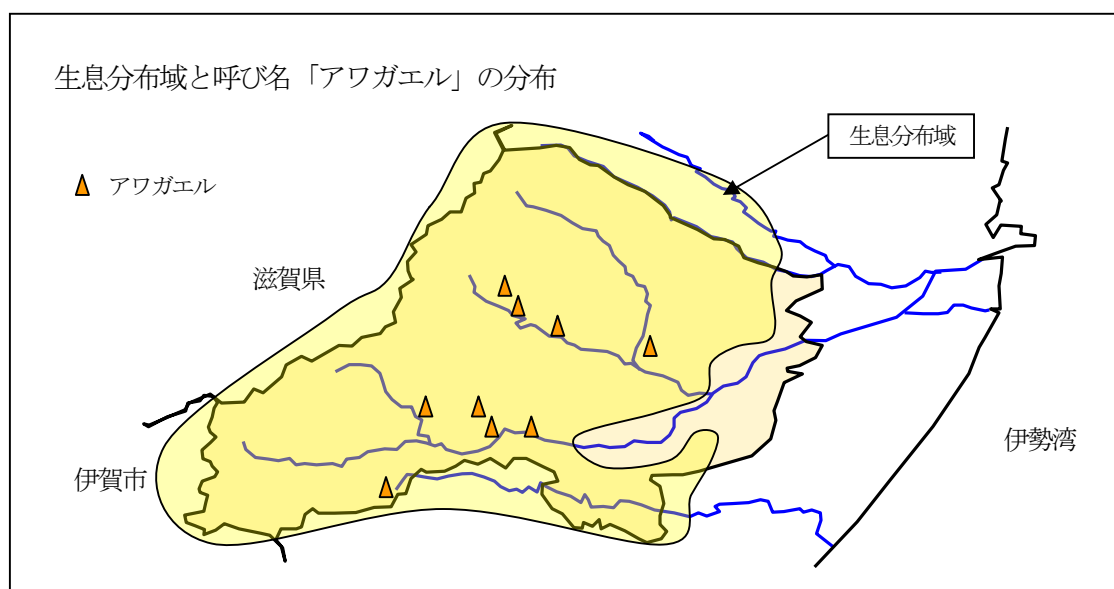
シュレーゲルアオガエルと同様に、多くの集落で黄緑色の体色に由来し「アオガエル」と呼ばれたほか、姿があまり見かけられず木の枝に産み付けられた白い泡状の卵塊が目立ったことから、集落によっては「アワガエル」とも呼ばれた。

また、小型の個体は「アマガエル」と呼ばれ、ニホンアマガエルと混称となったとともに、本種も頭を伏せた姿でみられることから集落によっては「ヒラガエル」や「ベツシャガエル」と呼ばれた可能性が考えられる。

⑤ その他

現在でも、5月から6月頃になると山間にある木立に囲まれた小池の周囲の木枝には白い卵塊を見かけることができる。

なお、調査方法としては、水場の上にかかった木の枝に白い泡状の大きな卵塊を産み付けるという本種の産卵習性・特徴に着目し、その有無を目安として聴き取りを行った。



(10) カジカガエル (カエル目アオガエル科)

① 対象種

カジカガエル

② 生息情報

河川上流部の集落

③ 採録した呼び名

- ・ 見かけられた場所 イワガエル
- ・ 標準和名等 カジカ, カジカガエル

④ 生息及び呼び名の状況

主として清冽な水が流れる河川上流部に生息し、美しい鳴き声をたてるのが特徴のカエルである。

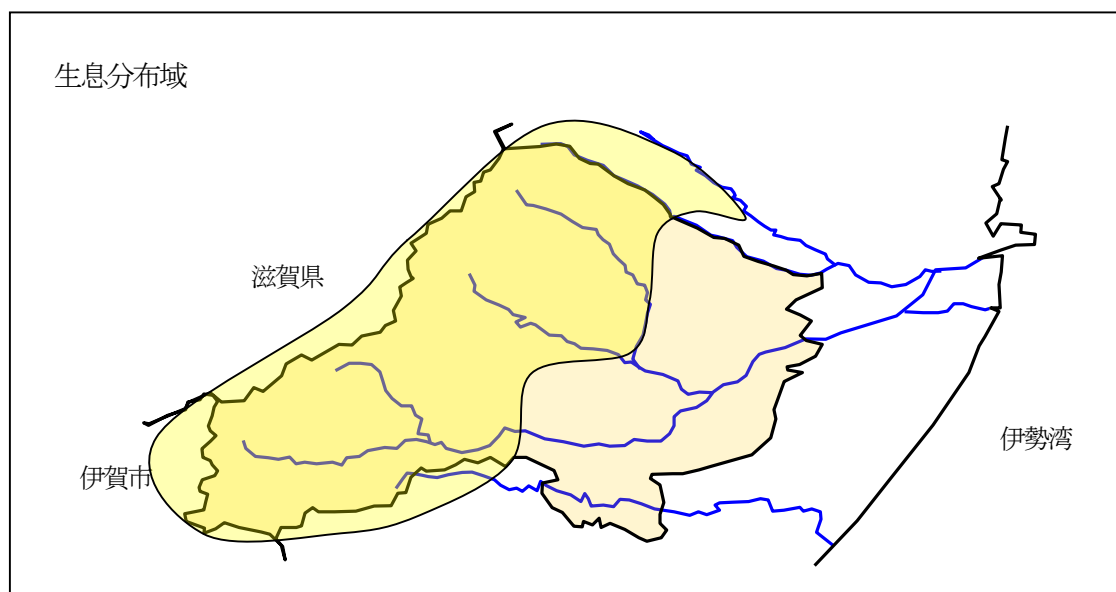
近年では河川最上流部以外で見かけることはあまりないようであるが、当時は上流部のほか中流部であっても湧水が出る木立に囲まれた場所で鳴き声が聞かれたという。

本種の呼び名としては、「カジカ」や「イワガエル」をはじめ計3種を採録した。

河川上流域の集落ではよく「カジカ」と呼ばれたほか、関町中心街においては溪流の岩の上で見かけられることに由来し「イワガエル」とも呼ばれた。

⑤ その他

聴き取りから、郡内での開発が進んだこと等により本種の美しい鳴き声が聞かれなくなったことを惜しむ声が上流域の集落でみられた。



※ 呼び名「アオガエル」について

聴き取りから、「アオガエル」は、体色が黄緑色のカエル類を総称する呼び名でもあり、調査対象としたカエル類ではニホンアマガエルやシュレーゲルアオガエル、モリアオガエルの呼び名となったとともに、集落によってはトノサマガエル（ダルマガエルを含む。）を呼ぶ場合にも使われた例がみられた。

※ 種別不明

ハツカガエル (住山)